

1 題材のデザイン

児童について

本学級の児童は、1年A児、2年B児・C児、3年D児の男子4名である。4名とも自閉症スペクトラム障害があり、「もう少し」「大丈夫」等、意味内容に幅のある抽象的な表現を理解することが困難である。そのため、指示の内容や時間の流れ等を具体的に理解することが難しい場合が多い。

全員が体を動かすことが好きで、外遊びや体育の授業を楽しんでいる。しかし、注意の持続の困難さや手足を協調させた動きの難しさから、静止する、ゆっくり動く、手先を使って細かい作業をするといった微細な運動については苦手である。そのため、しばしば転倒したりぶつかったりし、身体の動きのコントロールが十分できていない。また、ひも結びや手遊び歌などもうまくできないという実態である。

以上のことから、楽しみながら身体を動かす題材を通して、身体をリラックスさせる運動やボディイメージを高める運動に取り組み、身の回りの生活動作に習熟させる必要がある。

児童の実態	1年A児	2年B児	3年C児	4年D児
意味理解	○	△	△	△
注意の持続	△	△	○	△
全身運動	◎	○	◎	△
手先を使う細かい運動	○	△	△	△

題材について

本題材のねらいは、ゆっくり・そと・静かに動くことを意識させる課題「にんじゃのしゅぎょう」を取り入れることで、いろいろな身体の動きに慣れ、ボディイメージを高めることである。忍者の動きをイメージした運動遊びを通して、身体の動かし方や力のコントロールを学ぶことができる題材である。

また、本題材の学習を通して、身体の大きな動き、微細な動きに慣れ、作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高めることができる。さらに、動き方の指示を聞いたり図解を見たりするなかで、左右の概念や活動の流れ、指示内容の具体的な意味を理解することの難しさに対して働きかけ、概念の形成を図ることができると思う。

指導の手立て

本題材の指導に当たっては、それぞれの児童の特性を踏まえて、次の3点を意識して指導する。1点目は短く具体的な指示をすること、2点目は活動の見通しをもたせること、3点目は活動のルールを徹底することである。これにより落ち着いて学習に取り組めるようにし、児童が楽しみながら滑らかに身体を動かすことができるよう、「忍者になっていろいろな動きの修行をする」という活動を設定する。

「課題の設定」では、忍者の動画と組体操のVTRを見て、身体の動かし方を視覚的に捉えさせ、実際に動いてみることで、滑らかな動作と静止の難しさを知り、自分の身体の動きにかかわる課題に気付かせる。

「課題の追求」では、速く走る、高く跳ぶ、ボールを投げる等の運動遊びを通して、全身の大きな動きを繰り返して行わせる。また、合図で静止する、ゆっくり動く等の運動遊びを通して、手足を協調させた動きを繰り返して行わせる。さらに、物を包む、袋から出す、道具を使う等の遊びを通して、滑らかに手指を動かすことに慣れさせる。これらの動きに忍者の修行というイメージをもたせることで、滑らかに行うにはどうしたら良いかを試行錯誤する児童の姿を引き出す。

「学びの深化」では、これまでの運動遊びの中からさらに高めたいものを自分で選んで取り組ませる。目的に即して意図的に身体を動かすことで、微細な動きの正確さや速さ、持続性の向上を図るようにする。

さらに、「まとめ・振り返り」では、身に付けた「わざ」を友達と見せ合い、応用できそうな生活場面を考えさせる。

本題材の目標

手足を協調させ、身体を思った通りに動かしたり、微細な運動をしたりできる。

- 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

【特別支援学校教育指導要領・学習指導要領解説 自立活動編 4 環境の把握 (5)】

- 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

【同解説 5 身体の動き (5)】

2 題材構想図（単元計画と評価）

本題材の学習の流れ（全6時間）

課題の設定（1）

「にんじゃのわざを知ろう」

- 忍者の動画と組体操のVTRを見て、身体の動かし方を視覚的に捉え、実際に動いてみることで、滑らかな動作と静止の難しさを知り、自分の身体の動きにかかわる課題に気付く。

【環境の把握(2)】自分の注意機能の特性や動きのぎこちなさに気づき、忍者の動きを目指そうとする意欲をもつ。

課題の追求（3）

「にんじゃのしゅぎょうをしよう」

- 速く走る、高く跳ぶ、ポールを投げる等の運動遊びを通して、大きく全身を動かすことに慣れる。

【身体の動き(1)】姿勢を保持しながら、走る、跳ぶ、投げる等の動きを滑らかに行っている。

- 合図で静止する、ゆっくり動く等の運動遊びを通して、手足を協調させて動かすことに慣れる。自分が運動している様子を撮影した映像を見て振り返り、ボディイメージをつかみ、より滑らかな動きになるように練習する。

【身体の動き(5)】合図に合わせて思った通りに止まったり動いたり、手足を協調させて滑らかに動かしたりしている。

- 物を包む、袋から出す、道具を使う等の遊びを通して、滑らかに手指を動かすことに慣れる。作業に必要な動作を分解して捉え、一つ一つの動作を身に付け、徐々に身に付けた一つ一つの動作をつなげ、連続して行えるように練習する。

【身体の動き(5)】指先を使って微細な動作を行い、滑らかに動かしたり遊びを楽しんだりしている。

学びの深化（1）

「自分で決めたにんじゃのわざをみがこう」

- これまでの評価シートからさらに高めたい「わざ」を自分で決めて取り組み、目的に即して意図的に身体を動かす。これまでの運動と組み合わせて、一連の動作を滑らかに行えるように練習する。

【身体の動き(5)】手足を協調させ、身体を思った通りにゆっくり動かしたり、手先を使う微細な運動をしたりしている。

本時 5 / 6

まとめ・振り返り（1）

「ハイパーにんじゃ はっぴょうかい」

- 身に付けた「わざ」を友達と見せ合い、応用できそうな生活場面を考える。できるようになった「わざ」が生活に般化できることに気付き、これまで苦手としていた運動や作業に取り組む意欲をもつ。

【環境の把握(2)】できるようになった「わざ」に共通する動きに気づき、似たような動きをする生活場面を見つけて話している。

特性に応じた指導・支援の工夫

【課題の設定】

スケジュールカード【見通し】

- 単元の流れを視覚的に示すことで見通しをもたせる。

モデリング【意欲】

- ゴールの姿を視覚的に示すことで意欲をもたせる。

【課題の追求】

具体的な指示・説明【意味理解】

- 活動内容を視覚的に示し、簡潔に説明することで、理解を促す。

スモールステップ【巧緻性】

- 複雑な動作は、動きを細分化して少しずつ確認しながら練習させる。

学習規律の徹底【心理的な安定】

- 活動のルールや流れを明文化し、安心して学習に取り組ませる。

場の設定【焦点化】

- 活動ごとに場所を設定し、その場所での目的を意識させる。

即時評価【意欲】

- シールを貼る等の評価シートを用いて課題をクリアする度に即時評価を行い、意欲を持続させる。

【学びの深化】

自己決定【意欲】【自信】

- 活動内容を自分で決めることで意欲をもたせ、達成感を味わわせる。

課題の明示【注意集中】

- 取り組むべき課題を視覚的に示し、意識を集中させる。

【まとめ・振り返り】

自己評価【認知】【記憶】

- 映像や認定証等を用いて振り返りを行い、客観的に考えさせる。

般化【意欲】【自信】

- 身に付けたことを生活に応用できることに気付かせ、いろいろなことに取り組む意欲を高める。

3 本時の展開

本時の目標

自分で決めた運動遊びに取り組み、目的に即して意図的に身体を動かすことができる。

本時の評価

評価規準	手足を協調させ、身体を思った通りにゆっくり動かしたり、手先を使った微細な運動をしたりしている。
概ね満足できる 児童の状況	<u>ゆっくりと身体を動かす「くぐりわざ」</u> 「くものす」ゆっくりと身体を動かし、ゴムの鈴が鳴らないように通り抜けている。 「やみのトンネル」トンネルの中をゆっくりと這ってくぐりぬけている。 「はしの下」棒の下を這い、合図に従って棒の下で静止した後に通り抜けている。 <u>ロープをたぐって物や身体を動かす「ひっぱりわざ」</u> 「えだわたり」シートの上に座り、ロープをたぐって進んでいる。 「お茶はこび」上に乗せたお茶がこぼれないように箱をゆっくりとたぐり寄せている。 <u>指先を使う「ゆびわざ」</u> ひも結びをしている。蝶結びまたは片結びで結んでいる。 ひも通しをしている。

場の設定

